

道徳教育の推進の在り方に関する研究

平成27年3月の学習指導要領の一部改正により、「特別の教科 道徳」が設置され、答えが一つではない道徳的な課題に一人一人が自分自身の問題と捉え向き合う、「考え、議論する道徳」への転換が求められている。そこで、道徳教育の推進体制づくりや、発達の段階を考慮した計画的・発展的な指導と評価の在り方について研究を行った。小・中学校と高等学校の研究協力委員6名の所属校による実践を基に、推進体制のモデル案や小中高のつながりを意識した指導計画を作成した。また、「道徳科における評価の見方の例」を作成し、OPP（一枚ポートフォリオ）シートの活用が組織的な評価の推進に有効であると実証された。

<検索用キーワード> 道徳教育 道徳科 道徳教育推進体制 一枚ポートフォリオ評価
評価を生かした授業改善 小中高のつながり 評価の見方の例

研究協議会顧問

名城大学人間学部教授

宮嶋 秀光

研究協議会委員

清須市立西枇杷島小学校教諭

岩崎 寛(平成28, 29, 30年度)

高浜市立高取小学校教諭

田中 智恵(平成28, 29, 30年度)

犬山市立南部中学校教諭

野田 亜希(平成28年度)

犬山市立南部中学校教諭

深見 倫恵(平成29, 30年度)

西尾市立吉良中学校教諭

神谷 順子(平成28, 29, 30年度)

県立津島北高等学校教諭

岡崎 直広(平成28, 29, 30年度)

県立安城南高等学校教諭(現岡崎工業高等学校定時制教頭) 鈴木 啓仁(平成28, 29年度)

総合教育センター研究指導主事(現知立市立竜北中学校長) 吉富 靖(平成28年度)

総合教育センター研究指導主事(現県立城北つばさ高等学校教頭) 鳴澤由紀子(平成28年度)

総合教育センター研究指導主事(現大府市立共長小学校教諭) 高石 幸信(平成28年度主務者)

総合教育センター経営研究室長

澤田 美代(平成29, 30年度)

総合教育センター研究指導主事

川口 永理(平成30年度)

総合教育センター研究指導主事

広瀬八重子(平成28, 29年度)

総合教育センター研究指導主事

大野 靖典(平成28, 29, 30年度)

総合教育センター研究指導主事

吉本 順子(平成29, 30年度)

総合教育センター研究指導主事

小川 雅美(平成29, 30年度主務者)

1 はじめに

グローバル化の進展や情報通信技術の急速な進歩により、今後、子どもたちは、予測の難しい社会状況に対応していくことが不可欠である。そのような社会を生き抜くためには、一人一人が、道徳的価値の自覚の下、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることが重要である。こうした資質・能力の育成に向け、道徳教育が果たす役割は大きい。

平成25年に文部科学省に設置された道徳教育の充実に関する懇談会において、「今後の道徳教育の改善・充実方策について」と題する報告がなされた。そこでは、道徳教育の課題として、「学校間、

教師間の差が大きい」「各教科等との役割分担や関連を意識した指導が十分でない」「指導方法に不安を抱える教師が多い」などが挙げられた。翌年、策定された中央教育審議会の「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）」では、小・中学校の道徳の時間を教育課程上「特別の教科 道徳」（仮称）として位置付け、その目標、内容、教材や評価、指導体制の在り方等を見直す必要があるとされた。それを受け、平成27年3月に学習指導要領が一部改正され、「特別の教科 道徳」（以下、「道徳科」）が設置されることになった。道徳教育が期待される役割を十分に果たすことができるよう、答えが一つではない道徳的な課題に一人一人が自分自身の問題と捉え向き合う、「考え、議論する道徳」への転換が求められている。

当センターでは、平成25年度から平成27年度にかけて「高等学校における道徳教育の推進の在り方に関する研究」、平成26年度と27年度は「小中学校における多様な評価手法に関する研究（道徳）」に取り組んだ。これらの研究の成果を踏まえ、発達の段階に応じた道徳教育の更なる充実を目指して、研究を進めた。

なお、研究協力委員の所属校では、道徳の時間を、「特別の教科 道徳」（道徳科）としては実践していない年度もあるが、本文の中では「特別の教科 道徳」または「道徳科」と表記している。

2 研究の目的

各学校種における道徳教育の推進体制づくりや、発達の段階を考慮した計画的・発展的な指導と評価の在り方について研究し、各学校種における道徳教育の充実に資する。

3 研究の方法

(1) 各学校種に応じた道徳教育推進に関する協議

小・中学校、高等学校の研究協力委員が、各学校種の状況について情報交換を行い、推進体制づくりと発達の段階に応じた指導方法や評価について研究協議する。

(2) 各学校種に応じた道徳教育の推進体制づくりと発達の段階に応じた指導方法や評価に関する実践

各研究協力委員が所属校において、「推進体制づくり」「指導方法の工夫と評価の取組」について実践し、効果的な取組について検証する。

4 研究の内容

(1) 各学校種における道徳教育の推進体制づくり

ア 授業づくりをサポートする体制づくり

平成28年度と平成29年度は、研究協力委員（小学校2名、中学校2名、高等学校2名）が、各所属校の実態に応じた道徳教育の推進体制づくりの実践に取り組んだ。各所属校での道徳教育推進のための実践を他校種の研究協力委員と情報交換しながら協議することで、それぞれの研究協力委員が自校の実態を多様な視点から分析することができた。そのことで、今まで気付かなかった道徳教育推進における所属校のもつ可能性や課題が見つかり、具体的な手だてへとつながった。実践報告から、各学校種における成果と今後、取り組むことを協議し、まとめた（資料1）。

それぞれの実践の成果に共通する点として、道徳教育推進教師が学年部や道徳部等を中心に授業づくりに関わることで、道徳教育に対する教師の意識が変わったことが挙げられる。授業づくりや授業改善をサポートする体制づくりを行うことで、「推進体制」と「指導」の両面が充実していくことが明らかとなった。さらに、各研究協力委員の所属校の推進体制を見直し、「計画の作成・提示」「情

報交換」「授業づくり・改善」「他教科との関連」「家庭や地域への働きかけ」を設定した道徳教育の推進体制のモデル案（別紙 1， 2）を作成した。

【資料 1 推進体制づくりについての実践のまとめ】

校種	成 果	今後、取り組むこと
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画を掲示して授業の実施状況が見える化したり、資料を共有したりすることにより、他学級や他学年の教員と授業づくりについて情報交換しやすくなった。 ・「授業づくりの五つの視点」に沿って、授業について学年部会で協議し、授業改善に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の継続的、組織的な見直し ・教科書の教材についての教材研究や教材開発
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに道徳教育担当者を決め、道徳部会を設けることで、授業づくりについて協議する場を定期的にもつことができた。 ・学校公開日に道徳科の授業公開を計画することで、学年部会を中心に授業づくりに取り組む雰囲気が生まれた。 ・ローテーション道徳*1を取り入れることで、道徳科の授業実践に苦手意識がある教員も、授業づくりについて情報交換する機会が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション道徳の効果的、効率的な実施方法の検討 ・教科化に向け、評価方法についての校内研修の実施
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導主事が道徳教育推進教師となり、生徒指導部を中心として組織的な取組を行うことができた。 ・公民科担当者によるマイクロインサージョン*2の授業づくりに取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の実態に応じた推進体制づくりの検討

* 1 ローテーション道徳

年に数回、その学年の教師が交代で学年の全学級を回って道徳の授業を行う取組のこと。その間、教師はそれぞれ同じ教材を使用し続ける。（「道徳教育 6月号 No. 720 2018」より）

* 2 マイクロインサージョン

各科目の授業内容の中に、特定（ここでは道徳教育）の内容を埋め込む手法

（「愛知県総合教育センター研究紀要 第105集（平成27年度）」より）

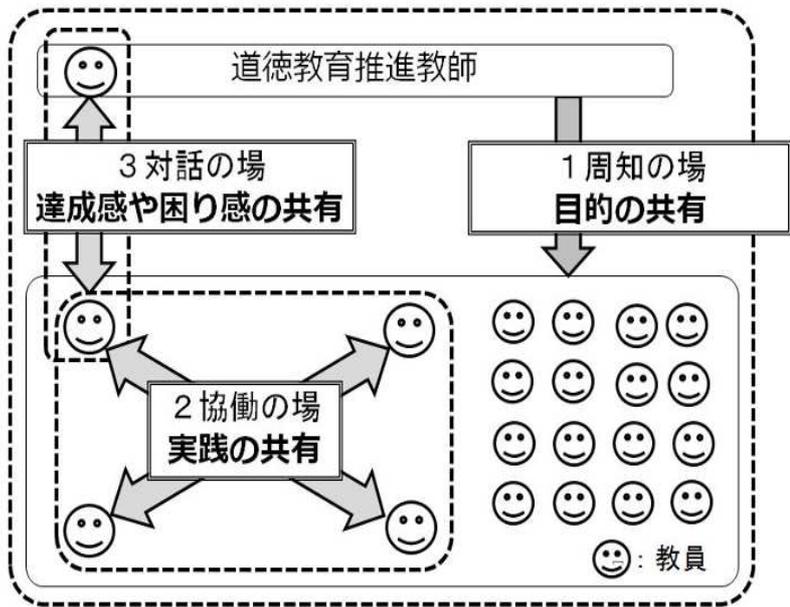
「特別の教科 道徳」として教科化された小学校と中学校では、学年部会等を中心として授業づくりを行う体制が有効であると考えた。学級担任だけに任せるのではなく、ローテーション道徳を取り入れるなど、学年部会を中心として組織的に授業づくりに取り組み、道徳科の授業の量的確保につなげたい。こうして組織的に授業実践を積み重ねていくことで授業改善がなされ、主体的に授業づくりに取り組む教員が増えていくと考える。高等学校では、道徳科は設置されていないため、何を要として道徳教育を推進していくかが重要である。高等学校学習指導要領解説総則編（平成30年）には「（道徳教育）全体計画の作成においては、校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力して道徳教育を行うこと。その際、公民科の『公共』及び『倫理』並びに特別活動が、人間としての在り方生き方に関する中核的な指導の場面であることを示した。」とある。公民科担当教師を道徳教育担当者とする場合、各学年に公民科担当教師が配属されていないことが多いため、学校の教育活動全体を通じてどのように道徳教育を推進していくかを具体的にする必要があり。高等学校にお

ける道徳教育推進では、既存の組織での道徳教育推進教師の位置付けを、学校の実態に応じて十分に検討することが重要である。

イ 「三つの場」での「三つの共有」によるPDCAサイクルの活性化

各学校種に応じた推進体制のモデル案を検討する中で、各学校種に共通するポイントとして、「1 周知」「2 協働」「3 対話」の三つの場（資料2）を、学校及び児童生徒の実態や目指す姿に応じて設定することが、PDCAサイクルを活性化させる推進体制の充実につながるということが分かった。「周知」の場では、道徳教育推進教師が全教員に学校としての指導方針や年間指導計画等を伝え、どこに向かって道徳教育を進めていくのかという「目的」を全教員が共有する。「協働」の場では、学年部等の小集団で、教材研究や授業

【資料2 推進体制の「三つの場」】



のねらいの設定、発問づくりなどの授業づくりに取り組む。児童生徒をよく知る学年部等の教員と、授業者が自身の「実践」を共有することで、授業者の道徳科に対する不安感や負担感を軽減することができる。「対話」の場では、道徳教育推進教師が日常の中で授業者との関わりをもち、対話を通して「達成感や困り感」を共有することで、道徳教育推進教師の働きかけの成果と課題を把握することができる。授業者にとっては、自分の経験や気持ちを語りながら、自分自身の実践を振り返るメタ認知の場にもなる。重要なことは、道徳教育推進教師自身が授業者の前向きな気持ちや成長に触れたり、困り感に寄り添ったりすることで、次の課題解決に向けての意欲が高まり、PDCAサイクルの活性化につながるという点である。これらの「三つの場」での「三つの共有」を学校や児童生徒の実態に応じて設定していくことで、推進体制の充実を図る。

(2) 発達の段階に応じた指導計画の作成及び実践

学校における道徳教育は、生徒の発達の段階を踏まえて行われなければならない。中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編（平成29年）の指導の配慮事項として、「小学校・中学校間の接続を意識した取組も大切である。（中略）あわせて、高等学校等と連携し、小・中・高等学校の接続を意識して道徳教育の指導の改善を一層図っていくことも考えられる。」とある。また、高等学校学習指導要領解説総則編（平成30年）には、「（高等学校については）小・中学校のように道徳科を特設しておらず、指導する内容項目等は示されていないが、学校全体で行う道徳教育の全体計画を作成、実施するに当たっては、小・中学校の道徳教育との接続を意識することが求められる。」とある。そこで、所属校で実践する授業づくりについて、小・中・高等学校の研究協力委員と一緒に協議することで、接続を意識した指導の改善に生かしたいと考えた。高等学校では研究協力委員の担当である公民科「現代社会」で実践を行うこととし、公民科の学習内容と小・中学校道徳科で扱う内容項目との関わりから、高等学校の現代社会では「高齢化問題」について、小・中学校の道徳科では「C家族愛」に

についての授業を計画した（資料3）。

【資料3 学習指導要領解説の関係部分】

小学校4年 道徳科	中学校3年 道徳科	高等学校1年 公民科「現代社会」 (下線は、道徳科の内容項目に関わる部分)
内容項目：C家族愛 父母，祖父母を敬愛し，家族みんなで協力し合っ て楽しい家庭をつくること。	内容項目：C家族愛 父母，祖父母を敬愛し，家族の一員として の自覚をもって充実した家庭生活を築くこ と。	現代の経済社会の変容などに触れながら，（中 略）経済成長や景気変動と <u>国民福祉の向上</u> の関連 について考察させる。また，雇用，労働問題，社 会保障について理解を深めさせるとともに， <u>個人 や企業の経済活動における役割と責任</u> について考 察させる。

ア 小中高のつながりを意識した授業の教材とねらい

(ア) 小学校

児童は，家族に温かく見守られてこの世に生を受け，家族との関わりを通して，人としての情愛や道徳性を育てていく。児童にとって家庭や家族はとても重要なものであり，その家族との間にどのような信頼関係を築くかが，児童の成長に大きく影響してくる。そこで，自分のことだけでなく，少しずつ人のために行動できるようになる小学校中学年の時期に，自分と家族とのつながりについて考えさせる。そして，自分がこれまで家族の深い愛情に育てられてきたことに気付くことで，父母や祖父母を敬愛するとともに，これからは家族の一員として協力し，助け合っ
て楽しい家庭をつくっていかうとする気持ちを育てたいと考えた。

教材と授業のねらいは次のとおりとした。

主題名	大切な家族（内容項目：C-14 家族愛，家庭生活の充実）
教材名	おばあさんのおむかえ 出典「4年生のどうとく」（文溪堂）
ねらい	祖母を恥ずかしいと思う主人公の本音に向き合いながらも，祖母の深い愛に気付くことで，どんなときでも家族を大切に思い，家族に寄り添っていかうとする心情を育てる。

(イ) 中学校

小学校の段階では，特に高学年で，父母，祖父母を敬愛し，家族の幸せを求めて進んで役に立とうとすることについて学んできている。中学生になると，自我意識が強くなり，父母や祖父母の言動やしつけに反抗的になったり，父母や祖父母の気持ちを無視したりする行動となって現れることもある。そこで，自分が祖父母や父母に深い愛情をもって育てられていることを思い出させ，自分の成長を願
い，無私の愛情をもって育ててくれたことに対して，敬愛の気持ちを深めることが必要である。そして，家族の中での自分の役割や責任について考え，家族の一員であることの自覚を高めさせたいと考えた。

教材と授業のねらいは次のとおりとした。

主題名	家族の一員として（内容項目：C-14 家族愛，家庭生活の充実）
教材名	一冊のノート 出典「私たちの道徳 中学生」（文部科学省）
ねらい	祖母の苦しみや主人公に対する思いを考えることで，かけがえのない家族の存在に 気付き，その一員として関わり合いながら，充実した家庭生活を築こうとする態度を 育てる。

(ウ) 高等学校

小学校の段階では、父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立とうとすることについて学んできている。中学校の段階では、父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くことについて学んできている。このように、家族の一員として自分の責任や役割について考えることは、社会の一員としての自覚の高まりの基盤となる。これらの学びを踏まえて、高等学校の公民科「現代社会」の学習では、高齢化に伴う諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公平に判断する力を養いたいと考えた。

教材と授業のねらいは次のとおりとした。

主題名	高齢化率上昇に伴う諸問題の探究
教材名	高等学校 改訂版 現在社会（第一学習社）
ねらい	居住区の高齢化の現状から家族の介護について考えることで、日本社会の少子高齢化の進行を身近な課題と捉え、自分との関わりの中で考えを深める。また、社会保障制度の意義や役割を理解するとともに、少子高齢化の進行に伴うさまざまな問題点をグループで話し合い、社会の一員としての自覚を高める。

イ 指導計画及び発達の段階に応じた指導の工夫

(ア) 考える視点を変えることで考えを深める（小学校）

段階	学習活動（◎中心発問，○発問，・予想される児童生徒の反応）	◇指導上の留意点
導入	1 価値を意識する。 ○自分にとって家族とはどんな存在ですか。 ・支えてくれる。 ・大事なもの。 ・ごはんを作ってくれる。 ・感謝したい。	◇導入で、家族について価値を意識できるようにする。
展開	2 「おばあさんのおむかえ」を読んで話し合う。 ◎おばあさんの後ろ姿を見て、なぜ友紀は胸がきゅんとなったのでしょうか。 ・おばあちゃんにひどいことを言ってごめんね。 ・私のために来てくれたのに。 ・足が悪いおばあちゃんがわざわざ来てくれたのに、悪いことしちゃった。 ・いっしょに帰ろうと思っていたのに、悲しそう。 ○友達がからかってきたとき、なぜ友紀はおばあさんに「一人で帰って、早く早く」と強く言ったのでしょうか。 ・友達に足の悪いおばあちゃんを見られて、恥ずかしかったから。 ・おばあちゃんがかawaiiそうだから。 ・おばあちゃんにこれ以上嫌な思いをさせたくないし、自分も恥ずかしいから。 ○おばあさんは、どんな思いで友紀さんに傘を渡しに行ったのでしょうか。 ・私が行くと友紀は嫌がるかもしれないけど、友紀がかぜをひいたら大変だから、持って行こう。 ・いっしょに帰らなくてもいいから、傘だけそっと置いていこう。	◇おばあさんが傘を持ってきたのに、一人で帰らせてしまったという後悔する気持ちに共感できるようにする。 ◇友達におばあさんの足を言われて恥ずかしく思い、おばあさんに対して冷たい態度をとってしまう友紀の気持ちを確認する。 ◇おばあさんの視点から考えさせ、足が悪いことをからかわれたとしても、孫のために行動するおばあさんの深い愛情を確認する。

終末	<p>3 今日の学習を振り返る。</p> <p>○今日の学習から、家族について考えが深まったことは何でしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族は、自分が思う以上に大切に思ってくれているから感謝したい。 ・これからも家族に優しく接して、祖父母を守りたい。 ・家族は大切だから、支え合っていきたい。 	<p>◇板書を基に今日の学習を振り返らせる。</p> <p>◇導入で考えた「家族」について、もう一度、自分を振り返る場とする。</p>
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------

まず、「おばあさんの後ろ姿を見て、なぜ主人公は胸がきゅんとなったのか」と主人公の視点で児童に考えさせ、主人公の自己中心的な気持ちに焦点を当てた。その後、おばあさんの優しさに触れた児童の発言から、「どんな思いで主人公に傘を渡しに行ったのか」と祖母の視点で考えさせた。学習の振り返りに「最初、自分のことしか考えていなかったけど、おばあさんについての意見を聞いたら、考えが変わりました。これから自分にこういうことがあったら、感謝の言葉を言いたいと思います」と児童が記述したように、考える視点を変えることで、考えが深まったことが分かる。今後、どのように考えが変わったかやその理由を具体的に記述できるよう支援していくことで、より自分との関わりで考えを深めていけるようにしたい。

(イ) 事前アンケートにより考えの変化や深まりを実感させる (中学校)

場面	学習活動 (◎中心発問, ○発問, ・予想される生徒の反応)	◇指導上の留意点
導入	<p>1 価値を意識する。</p> <p>○家族とは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血がつながっている。 ・一緒に暮らしている。 ・どんなときも味方でいてくれる。 ・支え合っていく人。 	<p>◇家族とは何かについて問い、価値への導入とする。</p>
展開	<p>2 「一冊のノート」を読んで話し合う。</p> <p>○なぜ、ぼくに本当のことを話したのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の一員だから。 ・大人として見てくれたから。 ・おばあちゃんを守ってほしいから。 <p>◎自分がおばあちゃんの立場だったらどんな気持ちか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恐ろしい、怖い。 ・泣ける。 ・家族とともに幸せに暮らしたい。 <p>○黙っておばあちゃんと並んで草を取る「ぼく」は、心の中でどんなことを考えていただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごめんなさい。おばあちゃんの気持ちを分かっていたよ。 ・今までありがとう。僕たちのためにがんばってくれたんだね。 ・これからは、おばあちゃんの力になるからね。 <p>3 家族について考える。</p> <p>○家族で支え合うとはどういうことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分ができることは、自分でやる。 ・家族の一員として家族を助ける。 ・家族みんな、笑顔で暮らせるようにする。 	<p>◇父の言葉から、今の医学の進歩について取り上げ、自分の力ではどうしようもできない祖母の不安や恐怖の気持ちに気付かせるようにする。</p> <p>◇おばあちゃんのノートの内容から、不安を隠し、自分よりも孫のことを考えるおばあちゃんの生き方について触れる。</p> <p>◇おばあちゃんに対する「ぼく」の思いに共感できるようにする。</p> <p>◇家族が支え合う関係を図で表すことで、自分の役割や責任を視覚的にイメージさせる。</p>
終末	<p>4 自分の生活を振り返る。</p> <p>○「家族」についてどんなことを考えたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで自分が支えられてきたことがよく分かった。 ・やってもらうのが当たり前ではなかった。感謝したい。 ・家族のためにできることをやって、支えたい。 	<p>◇事前アンケートの内容と<u>比べながら</u>、家族に感謝し、これからの自分の生き方について考えさせる。</p>

中学校での実践では、事前アンケートで「家族とは？」と生徒に聞くことで、生徒の考えを把握するだけでなく、生徒自身にも自分の考えの変化や深まりを実感してほしいと考えた。また、生徒は、「認知症」という言葉は知っているが、十分に理解しているとは言えず、断片的な知識のみで誤解していることもある。そこで、「認知症について知っていることは？」を事前に聞き、知識の不足や誤解によって、ねらいとする道徳的価値の理解を妨げることがないようにした。「家族とは？」についての事前アンケートでは、「～してくれる存在」と答えた生徒が多く、自分のために家族が何かをしてくれることが当たり前だと感じていることが分かる。学習の振り返りでは、「いつも家族がしてくれていることを当たり前だと思わず、一つ一つに感謝していこうと思いました。たまに『うるさいな』と思ってしまうけれど、自分のために言ってくれていることに感謝して、もっと家族を大切にしていきたいです」と記述した生徒のように、自分の行動を振り返りながら、家族を大切にしていこうという思いを高めた生徒が多かった。さらに、「私もこれから大人になっていくので、両親や祖父母の気持ちを分かろうとしたい」と思いました。『(主人公の) 僕が支える』という意見を聞いて、自分が支えるのだという意識をもつことが大事だと分かりましたと学習の振り返りで記述し、家族の一員としての自覚を深めることができた生徒もいた。このように、中学校で学んだ家族の一員としての自覚が、高等学校で人間の在り方生き方に関わる問題について議論したり考えたりすることで、社会の主体的な形成者としての自覚につながっていく。

(ウ) 自分の選択の根拠を述べることで考えを深める (高等学校)

場面	学習活動 (◎中心発問, ○発問, ・予想される生徒の反応)	◇指導上の留意点
導入	1 高齢化について知る。 ○法律上、高齢者は何歳からか。 ○住んでいる市の高齢化率はどのくらいだと思うか。 ○「高齢化社会」「高齢社会」「超高齢社会」の違いは何か。	◇身近な問題として考えられるように、生徒が住む市の高齢化率を予想させる。
展開	2 介護問題について考える。 ○高齢化に伴い、どんな問題が起こると思うか。 ・労働：労働力不足、市場規模の縮小 ・教育：少子化による学校の統廃合 ・社会保障：保険料収入減少、財源不足、介護負担の増加 ◎親の介護について、自分だったらどうするか、自分の考えを書き、グループで話し合う。 あなたは正社員として、自宅から車で1時間程度で通勤できる会社に勤務しています。今まで、父親（または母親）と二人で暮らしていましたが、最近、高齢のため父親（または母親）が介護を必要とする状況になってしまいました。あなたは、父親（または母親）の介護を、在宅介護か施設介護のどちらで行いますか。 ・在宅介護：施設に入所する資金がない、家族だから ・施設介護：介護する時間がない、ヘルパーがいるから	◇次時以降の学習にもつながるように、「労働」「教育」「社会保障」の観点で、高齢化に伴って起こる問題を考えさせる。 ◇ <u>選択した理由を、具体的な根拠を挙げながら、グループで発表する場を設定する。</u>
終末	3 本時の学習を振り返る。	

生徒は最初、「働いている自分は介護する時間がない。だから施設介護を行う」「バリアフリーに自

宅を改造するのは費用がかかる。だから施設介護を行う」「施設は費用がかかる。だから在宅介護にする」と、時間や費用の面から考えていたが、意見交流を続ける中で、「家族と離れるのはさみしいのでは」「家に一人にいるより、施設でたくさんの人と過ごした方が楽しいのでは」と少しずつ要介護者の立場に立った意見が出てきた。また、「専門のヘルパーが介護した方が親も自分も安心して生活できる」と要介護者と介護者の両方についての意見から、「自分が働きたいから、施設介護を選択する」という意見も出された。介護問題を自分との関わりで考えることで、道徳科の内容項目の「C家族愛」の視点とともに、「B思いやり、感謝」「C勤労」の視点からも考えを広げることができ、科目の内容だけでなく、道徳的諸価値の理解を深めることができたと考える。

(3) 一枚ポートフォリオ評価の活用

ア 一枚ポートフォリオ評価について

一枚ポートフォリオ評価は、「教師のねらいとする学習の成果を、学習者が一枚の用紙の中に複数時間の学習の前・中・後の学習履歴として記録し、それを自己評価させる方法」として、堀哲夫氏（現山梨大学理事・副学長）が2002年に開発したものである。一枚ポートフォリオ評価では、学習者が記録する一枚の用紙として、OPP（One Page Portfolio）シートを用いるが、そのOPPシート（別紙3）を構成する要素として、堀氏は「A シートタイトル」「B 学習前・後の本質的な問い」「C 学習履歴」「D 学習後の自己評価」の四つを挙げている。児童生徒が記入したOPPシートは、1時間の授業ごとに教師が回収し、学習状況を把握した後、コメントを記入して児童生徒に返却するとともに、授業改善に生かしていくものである。

当センターで行った「小中学校における多様な評価手法に関する研究（道徳）」（平成26、27年度）では、OPPシートを用いた一枚ポートフォリオ評価を軸として、道徳の時間（当時）の評価に取り組み、道徳の時間（当時）における児童生徒の学習状況を把握し、指導計画や指導方法の改善等、指導に生かす視点が得られることが分かった。そこで、この研究で作成したOPPシートを活用し、実践を行うこととした。

イ 授業改善への活用

(ア) A小学校の実践

A小学校では、平成28年度に6時間のまとまりで考える授業に取り組んだ。相手の立場に立って考えたり行動したりすることについて、6時間の学習を通して考えることで、児童の変容を捉えることができたという成果があった。しかし、学級の実態、学年や学校行事に配慮しながら、複数時間の学習として6時間を確保することに苦勞し、実践を継続することは難しいと感じた。そこで、4時間のまとまりで学習計画（別紙4）を作成し、実践に取り組んだ。第6学年の学習計画では、ねらいを「相手の立場に立って考えたり行動したりすることについて考える」とし、授業で扱う内容項目を「B親切、思いやり」「A個性の伸長」「B相互理解、寛容」とした。

6年生児童Aは、OPPシートの学習履歴（資料4）に、第1時「自分のことでいっぱい」、第2時「自分が続けていることは」と記述し、自分自身との関わりの中で考えることができた。しかし、相手の立場に立って考えたり行動したりすることについて考えるところまでには至っていない。

【資料4 児童AのOPPシート「学習履歴」の記述①】

第 1 時	【今日の学びのタイトル】感謝の気持ち
	<u>自分のことでいっぱい</u> で、周りの人たちの気持ちを考えることができないときでも、自分ができることを考えて、行動する。

第2時	【今日の学びのタイトル】 継続中
	自分が続けていることは、全部無駄ではないから、いつかやってよかったと思えるようにがんばること。

そこで、第3時の「B相互理解、寛容」についての授業では、展開後段で「この後、二人は、相手のことを考えて、どうすればよいでしょう」という発問をした際に、板書（資料5）に「相手」というキーワードを強調して残した。第3時の児童Aの学習履歴（資料6）には、「誰かが私に向かって意見を言ったとき、相手のことを考えて意見を返せるようにしたい」と記入し、「相手」を意識して考えられるようになったことが分かる

【資料5 キーワードを強調した第3時の板書】



記述が見られた。第4時の「B親切、思いやり」の授業では、いじめられて苦しい思いをしていた妹の様子を描いた絵本を資料として使い、相手の立場に立って考えることについて話し合った。最初、絵本の中のいじめという問題に対して、自分にはあまり関係ないという様子で話し合いが進んでいた。しかし、「いじめが周りの全ての人を不幸にするのではないか」という児童の発言によって、自分たちの生活でもいつ起こってもおかしくないのではないかと、自分のこととして真剣に考え始めた。第4時の児童Aの学習履歴（資料6）では、「誰かが困っているとき、力になったり助けてあげたりした方がよいと分かっているのに、なかなか行動に移せない」と今の自分自身を見つめながら、大切であると分かっているにもかかわらず実現することができない人間の弱さについて理解を深めている。その上で、「『困っているからすぐ助けなきゃ』と思えるようになりたいです」と、「困っているから」と相手の立場に立って考え、「『すぐ助けなきゃ』と思えるようになりたい」と、これからの自分の生き方として実現していこうとする思いを深めることができた。

【資料6 児童AのOPPシート「学習履歴」の記述②】

第3時	【今日の学びのタイトル】 聞き入れる力
	誰かが私に向かって意見を言ったとき、相手のことを考えて意見を返せるようにしたい。
第4時	【今日の学びのタイトル】 困っている人を見たら
	誰かが困っているとき、力になって、助けてあげた方がよいと分かっているのに、なかなか行動に移せないなので、困っている人がいたら、「困っているから、すぐ助けなきゃ」と思えるようになりたいです。

第5学年の学習計画（別紙5）では、ねらいを「命を大切にすることについて考える」とし、内容項目を「C生命の尊さ」のみとした。

5年生児童Bは、OPPシートの学習履歴（資料7）に、第1時は「自分の命は大切」、第2時は「自分で守れるように」と記述し、「命を大切にすること」について自分自身との関わりの中で考え

ることができた。しかし、他の人の命について考えるところまでには至っていない。また、児童Bは、自分の考えをもつことはできるが、学習を通して自分の考えが変わったり、深まったりすることが少ない。第1時や第2時の学習でも、同じような様子が見られ、自分の考えを発言することもなかった。

【資料7 児童BのOPPシート「学習履歴」の記述①】

第1時	【今日の学びのタイトル】生命の尊さ
	改めて、 <u>自分の命は大切なのだ</u> なと思いました。これからも、 <u>自分の命を大切に</u> していきたいです。
第2時	【今日の学びのタイトル】生と死
	命には限りがあり、いつかは死んでしまうということを改めて感じさせられました。たった一つの命なので、 <u>自分で守れるように</u> していきたい。

そこで、第3時の学習では、児童Bが友達の考えと比べ自分の考えを深めていけるように、道徳的な問題場面に対する解決策を考える問題解決的な学習を取り入れることにした。第3時で学習する資料「人類愛の金メダル（出典：わたしたちの道徳）」は、オリンピックのヨットレースの際に、主人公が、ヨットが転覆し海に投げ出された他国の選手を助けるか、金メダルを獲得するために自分はレースを続けるかの葛藤が描かれている。展開後段の部分で、「キエル兄弟はオリンピックの金メダルをあきらめてまで、ライバルの選手を救助したが、もし、自分がキエル兄弟だったら、どのように行動するか」と問いかけ、話し合いの場面を設定した。児童Bは、話し合いの場面（資料8）で、「私は迷う。金メダルを取るために4年間がんばってきたから、レースを続けたい気持ちもあるし、目の前で死にそうになっている人がいるのに助けないわけにもいけない」と発言し、「自分ががんばってきたから続けたい」という気持ちと「死にそんな人を助けないわけにはいけない」という気持ちの葛藤を伝えることができた。

【資料8 第3時の話し合いの様子】

教師：	もし、自分がキエル兄弟だったら、どのように行動しますか？どうしたらよいでしょう？「助ける」という考えの方から聞いていこう。
児童1：	他の国の選手だけ助ける。
児童2：	周りの人と協力して助ける。
児童3：	順位とか関係なしに助ける。
児童4：	とにかくどんな方法でもいいから、「助けなきゃ」って、思う。
教師：	なぜ、「助けよう」って、思うのかな？
児童5：	命に代えられるものはないから。
教師：	「レースを続ける」と考えた人はどうかな？
児童6：	確かに、「助けなきゃいけない」とも思うけど、4年に一度の金メダルのチャンスを逃したくない。
児童7：	もし、助けに行ったら、自分の命も危険にさらされるかもしれない。
児童8：	国を代表してオリンピックに出ていて、国民の期待があるからレースは続ける。
教師：	他の人の命を見捨てることになっても、金メダルを取りたいって思うのかな？
児童B：	<u>私は迷う。金メダルを取るために4年間がんばってきたからレースを続けたい気持ちもあるし、目の前で死にそうになっている人がいるのに助けないわけにもいけない。</u>
児童10：	ぼくも迷っています。こんなチャンスはもう二度とないと思うし、勝ちにきているけど、やっぱり見捨てられない気持ちも・・・。

第3時の児童Bの学習履歴（資料9）には、「私がキエル兄弟のどちらかだったら」と書き始め、問題解決的な学習での問いについて自分の考えを記述した上で、「自分のことよりも他人の命を大切に思うその心は大切」と記述し、話し合いにより友達の考えを知ること、他の人の命についても考え始め、道徳的価値を深めることができたことが分かる。

第4時の学習では、小児がんで亡くなった子どもと小児がんと戦いながら生き続ける子どもを扱った資料を通して、生命の尊さについて考えた。第4時の児童Bの学習履歴（資料9）には、「将来、看護師を目指している」と自分の将来を思い浮かべながら、「他の人の救える命を救ってあげたいという気持ちが強くなりました」と記述し、道徳的価値の自覚を深めながら、その価値を自己の生き方として実現していこうとする思いを深めることができたことが分かる。

【資料9 児童BのOPPシートの「学習履歴」の記述②】

第3時	【今日の学びのタイトル】金メダルよりも命を先に
	私がキエル兄弟のどちらかだったら、助けるかレースを続けるか悩んでしまうと思います。そんな私に対して、すぐに正しい決断ができたキエル兄弟はすごいし、 <u>自分のことよりも他人の命を大切に思うその心は大切だと感じました。</u>
第4時	【今日の学びのタイトル】救える命
	私は、生きたいという気持ちを大切にしたいです。 <u>将来、看護師を目指しているのですが、他の人の救える命を救ってあげたいという気持ちが強くなりました。</u>

(イ) B中学校の実践

B中学校では、A小学校の4時間のまとまりでの実践を参考に「『自分に強さ』とは何か」について考える学習計画（別紙6）を作成し、実践に取り組んだ。B中学校では教育目標達成に向けて、「人に優しさ 自分に強さ」というキャッチフレーズを掲げている。4時間のまとまりの学習を通して、「自分に強さ」について生徒が多面的・多角的に自分の考えを深めるようにしたいと考えた。

生徒Cと生徒DのOPPシートの学習履歴の記述（資料10,11）から、「ルールは大切」であり、「守らなければならないもの」という考えが中心にあることが分かる。

【資料10 生徒CのOPPシート「学習履歴」の記述①】

第1時	やっぱり <u>ルールを守ることは大切</u> だと思った。誰かが破ってしまうと迷惑することが必ずあると思う。
第2時	集団にはルールがあると思った。その <u>ルールを一人一人がしっかりと守ることができれば困らない。</u>
第3時	「 <u>自分に強さ</u> 」とは <u>ルールを守ること</u> だと思った。自分が規則を破ってしまうと周りの人にも迷惑がかかるので、何があってもルールを守る強さだと思った。

【資料11 生徒DのOPPシート「学習履歴」の記述①】

第1時	<u>ルールを守ることは大切</u> で、ルールを守ってもらうことも大切で、 <u>ルールはみんなが気持ちよく過ごすためにある</u> と思う。
第2時	もし、私が主人公だったら、言えない。恵子さんに頼ってしまうと思う。でも後悔すると思う。 <u>キャプテンとして役割があることは分かるけれど、やっぱり怖い。</u>
第3時	今回の話の主人公は、自分の欲に負けてルールを破ってしまった。やっぱりルールや規則は守るためにあるので、 <u>どんな時もルールを守らなければいけない</u> と思う。

そこから、大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さや、道徳的価値を実現したり実現できなかつたりする場合の考え方や感じ方は多様であることについても考えを深めさせたいと考え、授業計画を見直した。第4時では、社会の一員であるという自覚を深め、公德心をもって行動しようとする気持ちを高めるといふねらいで、「無人スタンド」（出典：明るい人生）を扱う計画であった。しかし、第2時の生徒Dの「キャプテンとして役割があることは分かるけど、やっぱり怖い」という記述に着目し、資料を「二通の手紙」（出典：私たちの道徳）に変更することとした。どちらも、主人公の心の葛藤が描かれている資料（資料12）だが、相手を思い、規則を破ってしまったという内容の「二通の手紙」を通して、社会における法や決まりの意義についてより深く考えることができると考えた。

【資料12 「無人スタンド」と「二通の手紙」の概要】

資料名	概要
「無人スタンド」	正しい料金を払わないで無人スタンドを利用した少年を、主人公が目撃し、その場で注意できなかったことを悩む。
「二通の手紙」	子どもたちの願いを優先し、動物園の規則を守らず、時間外に入園させてしまった主人公が懲戒処分を受けてしまう。

生徒は、動物園の規則を守らず、懲戒処分を受けた主人公を通して、「ルールを守ること」と「相手の立場になって考え、行動すること」について道徳的な葛藤について話し合った。「自分に強さ」とは「ルールを守ること」と考えていた生徒Cは、ルールを守るためには、「いろいろな誘惑に勝たなければならない」「自分に強さ」とは「優先すべきことは何かを的確に選ぶことができる心」と第4時のOPPシートの学習履歴（資料13）に記述し、道徳的価値の実現には、弱さを乗り越える強さや的確な道徳的判断力が大切であると考えることができた。生徒Dは、「ルールはどんなときも守るべきもの」と考えていたが、第4時のOPPシートの学習履歴（資料14）の記述から、相手のために規則を破ってしまった主人公に自我関与しながら自分の考えを深めるとともに、「本当にいいことなのか」と更に自問自答を続けながら、道徳的価値の理解を深めることができたことが分かる。

【資料13 生徒CのOPPシート「学習履歴」の記述②】

第4時	<u>ルールをしっかりと守るには、いろいろな誘惑に勝たなければならない。</u> そんな誘惑に負けない強い心やいろんな条件から <u>優先すべきことは何かを的確に選ぶことができる心</u> が「自分に強さ」だと思った。
-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【資料14 生徒DのOPPシート「学習履歴」の記述②】

第4時	今日の授業はとっても迷いました。規則があっても、子どもたちを動物園に入園させたいという思いはよく分かりました。自分のために規則を破るのではなく、相手の幸せのために規則を破ることはいいことのように感じる。しかし、それが <u>本当にいいことなのか</u> 、何が正しいのかとても迷いました。それでも、 <u>その決断に自信をもつことが「自分に強さ」</u> なのかな。
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(7) C高等学校の実践

C高等学校では、生徒指導主事が道徳教育推進教師の役割を担い、生徒指導部員を道徳教育支援員と位置付け、道徳教育推進教師を中心とした組織的な取組を始めている。具体的には、道徳教育全体計画の見直しや道徳的な視点を意識した委員会活動の実施、道徳的な視点を記述した学習指導案作成

などを行った。道徳科が設置されていない高等学校での新たな取組として、OPPシートの活用方法を考え、実践した。

平成29年度はホームルーム活動の時間を活用して、「生命の尊さ」について考える3時間のまとまりの学習計画（別紙7）を作成し、道徳教育推進教師が授業を行うこととした。しかし、2時間分の学習時間をホームルーム活動の時間に確保できず、1時間分は、STの時間（10分間）3回分で実施した。中学校の道徳科の学習指導案を参考に学習計画を作成したが、道徳科が設置されていない高等学校ではやはり時間の確保が難しかった。また、グループでの話し合いの場では、生徒の感想を伝え合うのみで自分の考えを深めるところまでには至らなかった。

平成30年度は、テーマは前年度と同じ「生命の尊さについて考える」とし、STの時間（10分間）5回分をひとまとまりの学習として計画を作成した。また、平成29年度は道徳教育推進教師（生徒指導主事）が授業を行ったが、平成30年度は道徳教育支援員（生徒指導部員）2名が実践に取り組んだ。「資料を読み、感想を書く」活動と「感想を基にグループで話し合う」活動を1セットとして、学習計画（資料15）を作成し

【資料15 平成30年度 高等学校 道徳学習計画】

た。異なる資料を使って、同じ活動を繰り返すことで、生徒だけでなく授業者にとっても活動内容が分かりやすくなり、グループで話し合う時間を確保することができた。短時間の話し合い活動ではあったが、生徒は友達の考えを聞いて、自分の考えを深める機会となったことが生徒E、FのOPPシートの学習履歴（資料16）の記述から分かる。

ST	学習内容
1回目	・OPPシートの説明を聞く。 ・「生命の尊さ」とはどういうことか自分の考えを書く。（※）
2回目	・赤ちゃんポストについての説明を聞く。 ・資料を読む。 ・学習履歴に、資料を読んだ感想を書く。（※）
3回目	・赤ちゃんポストに賛成か反対かをグループ（4人）で話し合う。 ・学習履歴に、感想を書く。（※）
4回目	・延命治療についての説明を聞く。 ・資料を読む。 ・学習履歴に資料を読んだ感想を書く。（※）
5回目	・自分は延命治療をしてほしいかグループ（4人）で話し合う。 ・グループの意見を発表する。 ・学習履歴に感想を書いた後、事後課題、自己評価を書く。（※）

※は家庭で行うこととした。

【資料16 生徒E、FのOPPシート「学習履歴」の記述】

【生徒E 第2時】

赤ちゃんポストについて、僕たちのグループは賛成でも反対でもなかった。しかし、みんなの意見を聞いて、僕は賛成よりになった。あまり話し合いはできなかったが、同じ賛成の意見でも、人によっていろいろな意味で違っていて、とても深いなあと思った。

【生徒F 第4時】

みんなの意見は、やはり入院費などのお金がたくさんかかるし、苦しみながら生きたくないという同じような意見だった。でも、「逆の（家族の）立場だったら、少しでも長生きしてほしい」という意見もあった。「少しでも長く一緒にいたいから」という理由が、なるほどと思った。

生徒GのOPPシートの学習後の自己評価（資料17）の記述から、「学習前」と「学習後」の記述

を比べ、グループでの話し合いの場を通して、自分の考えが深まったことを実感していることが分かる。

【資料17 生徒GのOPPシートの「学習前・後の本質的な問い」「学習後の自己評価」の記述】

<学習前・後の本質的な問い> 「生命の尊さ」とはどういうことだと思いますか。あなたの考えを書き出してみましょう。	
<学習前> ・生き物は大切 ・大事なもの ・続いていくもの	<学習後> ・命はこの世で一番大切なもの。 ・食べ物は感謝しなくてはいけない。 ・自分が生きているのも誰かのおかげ。自分も誰かの命を大切にしなければいけない。 ・世界中の命が大切にされてほしい。
<学習後の自己評価> 最初は「生命の尊さ」が何かよく分かっていなかったけど、 <u>グループになって考えるうちに、みんなの意見を聞いて、自分の考えも深まって「生命」が何なのか分かった気がする。</u>	

さらに、生徒Hは、OPPシートの学習履歴（資料18）に記述しているように、赤ちゃんポストの問題を「生命の尊厳」という視点だけでなく、日本の人口減少と関連付けて考えを深めた。広く国家や社会について関心を持ち、人間や社会の在るべき姿について考えを深める時期である高等学校の生徒にとって、今回の学習が効果的であったことが分かる。

【資料18 生徒HのOPPシート「学習履歴」の記述】

<p>【生徒H 第2時】</p> <p>みんな、赤ちゃんの命が失われるよりは赤ちゃんポストがあった方が赤ちゃんの命を救えるから、グループであった方がいいというまとめになった。でも、日本は政府が認めていないらしい。<u>日本は人口減少しているのに・・・。</u></p>

OPPシートを活用した実践を振り返って、C高等学校の道徳教育推進教師は成果として、

- ・少人数のグループで自分の考えを発表する場を設定することで、自分の意見が認められたり、新たな考えを発見したりでき、考えを伝え合うことの楽しさや大切さを生徒が実感することができた。
- ・友達の考えを聞いて、自分の考えを見直したり、広げたりすることで、道徳的価値について多面的・多角的に考える生徒も見られた。
- ・STの時間（10分間）を複数回活用したまとめで学習することは、道徳科が設置されていない高等学校でも無理なく実践することができる。

の3点を上げた。また、OPPシートを活用した取組をより充実させるために、

- ・今回は一部の学級での実践だったが、人権週間などに関連させて行うことで、学校全体で取り組むことができるだろう。
- ・各教科の学習の中でもグループワークなどの学び合いの場を設定することで、各教科で学んだ発言の仕方やまとめ方が生かされ、短時間のグループの話し合いがより充実していくだろう。

の2点を上げている。

ウ 組織的な評価の推進への活用

D小学校の実践で児童が記述したOPPシートから複数枚を無作為に選び、その記述を使って、学習状況や道徳性に係る成長をどのように見取るかを研究協力委員で協議をした。学習状況等を見取る

際は、児童の記述をどの視点で見取ったかを明確にするために、小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編（平成29年）の「第5章 道徳科の評価」にある視点の例を引用し、表（資料19）にまとめた。記号の「T」は、「多面的・多角的な見方へと発展させている」という視点を示し、「J」は「自分自身との関わりの中で深めている」という視点を示している。

【資料19 道徳科の評価における視点と視点の例】

記号は当センターで追記

視 点	視点の例	記号
一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか	道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。	T-1
	自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。	T-2
	複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。	T-3
道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか	読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。	J-1
	現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。	J-2
	道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。	J-3
	道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。	J-4

児童の記述から、学習状況等を実際に見取ってみると、どの視点の例による見取りか迷ったり、着目した記述の箇所や視点の例が研究協力委員によって違ったりした。そこで、平成30年度道徳教育指導者養成研修での浅見哲也文部科学省教科調査官の講義を基に、視点の例を児童の学習の姿としてより具体的に表した「見方の例」を作成（別紙8）した。さらに、資料19にある道徳科の評価における視点に加えて、「発言や記述ではない形で表出する児童の姿」と「1単位時間の授業だけでなく児童が一定の期間を経て、多面的・多角的な見方へと発展していたり、道徳的価値の理解が深まったりしている姿」を追記し、「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか」と併せて四つの視点とした。

児童の学習の姿を具体的に示した「見方の例」を基に、児童のOPPシートの記述を見取ると、前回よりも自信をもって見取ることができたと研究協力委員は感じた。その後、協議の場で研究協力委員のそれぞれの見取った視点やその理由を出し合った。児童の授業中の様子は分からないため、正確な評価になるわけではないが、複数の教員で児童の実際の記述を使って、評価について協議することが、組織的な評価の推進に効果があり、その協議にはOPPシートの活用が有効であることが分かった。また、「見方の例」は学習指導要領解説特別の教科道徳編に示されている「視点」及び「視点の例」を基に、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を具体的に表した「例」であり、学習のねらいや指導過程、指導方法によって、他にも「見方の例」は考えられる。そのため、「見方の例」の欄にはあえて空欄を設け、授業者がそのつど、追記できるようにした。見方の例に示した児童生徒の姿を校内で見直す場を設定したり、見方の例を活用して研修を行ったりすることで、道徳科の評価に対して教員が自信をもって取り組めるようになり、負担感の軽減にもつながる。このような、組織的・計画的な取組の蓄積と定着が、道徳科の評価の妥当性、信頼性等の担保につながる。

5 研究のまとめと今後の課題

- ・推進体制づくりについては、授業づくりをサポートする体制を、現在の組織や活動を生かしながら道徳教育推進教師を中心として充実させていくことが指導體制の充実につながるということが明らかとなった。今後は、組織的・計画的に授業づくりに取り組む体制をどのように充実させていくかをPDCAサイクルを活性化していくという視点で検討していく必要がある。
- ・発達の段階に応じた指導については、児童生徒の成長・発達の様子や実態だけでなく、各学校種段階における指導との接続を意識した指導計画を作成することが、道徳教育の指導の改善につながるということが分かった。今後は、小・中・高の接続の要として、教育センターの支援の在り方を明らかにする必要がある。
- ・評価については、一枚ポートフォリオ評価の活用は、道徳科における児童生徒の学習状況及び成長の様子についての評価手法の一つとして有効であり、児童生徒の学習状況を把握し、指導の改善や充実に生かすことが、指導と評価の一体化の実現につながるということが分かった。また、評価の見取りの一助となる「道徳科における評価の見方の例」を作成することができた。小学校での実践を基に作成したが、中学校でも有効であると考えられる。今後は、作成した見方の例を活用した評価の在り方を検証する必要がある。

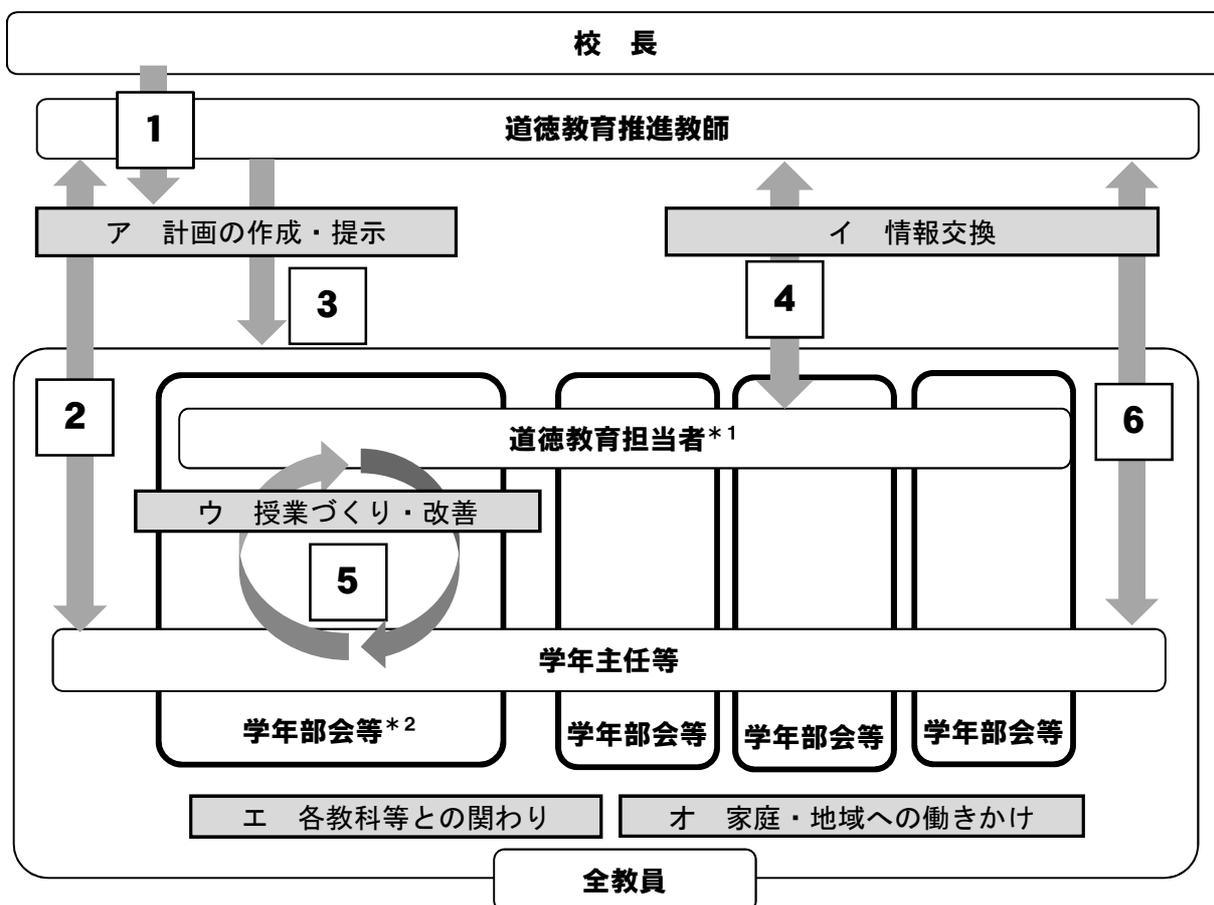
6 おわりに

今年度、小学校の「特別の教科 道徳」がスタートした。次年度より、中学校もスタートし、「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業改善を継続させていく体制づくりが更に求められていく。高等学校でも、道徳教育推進教師について新学習指導要領総則に新たに規定され、実践的な体制づくりの一步が踏み出された。今後も、「生きる力」を育む道徳教育の充実を目指し、推進体制の充実や発達の段階に応じた授業づくりと評価の研究を重ねていきたい。

参考文献等

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき，2018
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』教育出版，2018
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』2018
- 中央教育審議会「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）」2014
- 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）」2016
- 堀哲夫著『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価OPPA 一枚の用紙の可能性』東洋館出版社，2013
- 『道徳教育 6月号 No.720』明治図書出版，2018

学年部会等での授業づくり・改善を中心とした小・中学校の道德教育の推進体制モデル



* 1 道德教育担当者：学年部会等に一人

道德教育推進教師と道德教育担当者による道德教育部会を設定

* 2 学年部会等：小学校では，1～6年部や特別支援部，または低～高学年部など

中学校では，1～3年部や特別支援部

推進の流れ

1

校長の示した方針を下に道德教育の全体計画等を作成

2

学年主任等に，全体計画や指導計画の主旨を伝えながら，学年の実態を把握

3

職員会議や現職教育等で，全教員に計画を提示

4

学年部会等の道德教育担当者による道德教育部を設置し，授業づくりについて協議

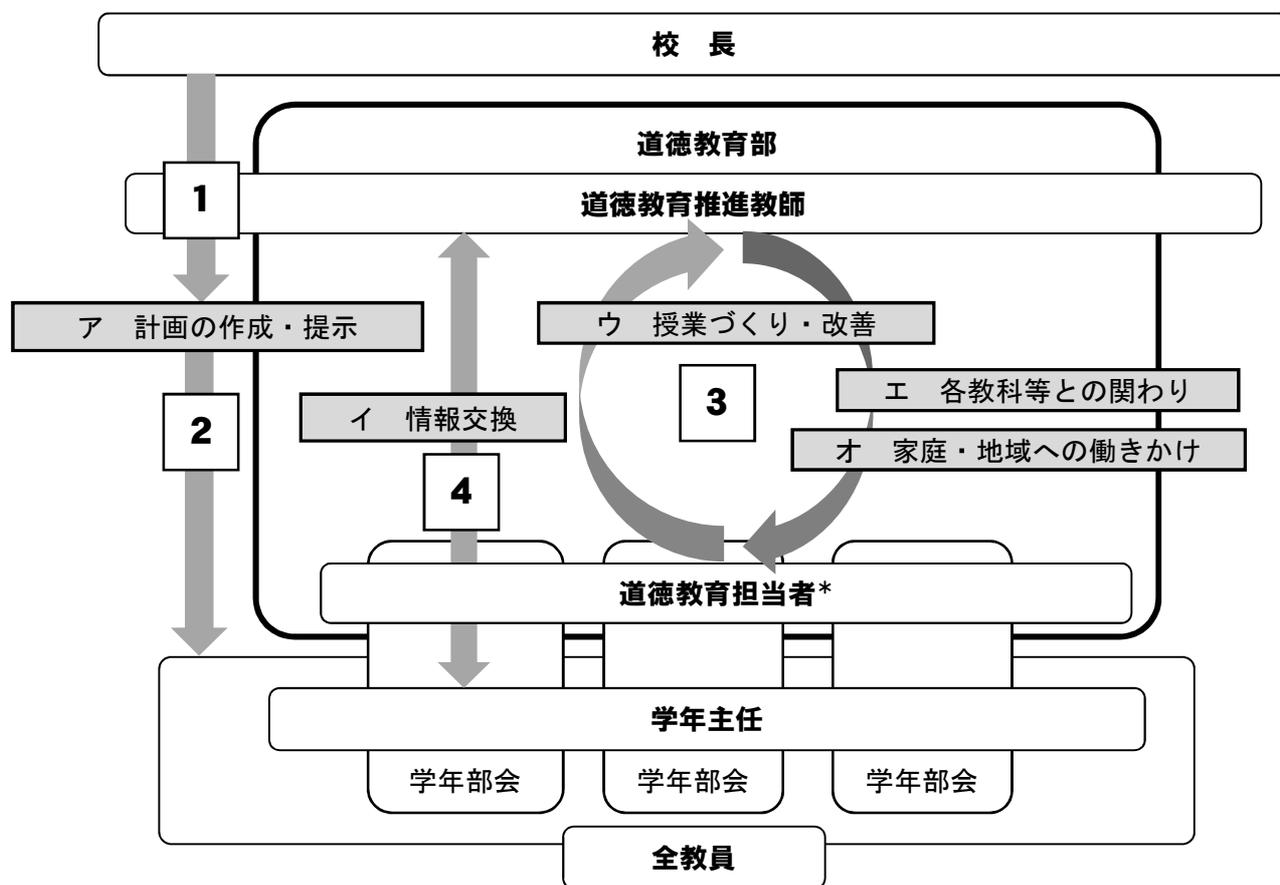
5

学年部会等で，道德教育担当者を中心とした授業づくり・改善

6

学年主任等と情報交換し，各学年部会等の状況を把握

道徳教育部*を中心とした高等学校の道徳教育の推進体制モデル



- * 道徳教育部・道徳教育担当者：学校の実態に応じて、特別活動部や生徒指導部などの既存の部会が道徳教育部を兼ね、その部員を道徳教育担当者とする。専門学科・総合学科を設置する学校の場合は、学科主任等の位置付けが必要となる。

推進の流れ

- 1 校長の示した方針を下に道徳教育の全体計画等を作成
- 2 職員会議等で、全教員に計画を提示
- 3 道徳教育部で、どのような場面で道徳教育を推進していくか協議
- 4 学年主任等と情報交換し、各学年部会の状況を把握

B 学習前・後の本質的な問い

単元の学習を通して教師が最も押さえてい
たいことに関する問いとして、学習前・後で
同じ問いを設定する。

A シートタイトル

あらかじめ教師が単元のタイトルと
して書き込んだり、単元の学習後、児
童生徒に書かせたりする。

(外面)

D 学習後の自己評価

学習前・後の本質的な問いへの記述の比較や学習履歴への記述
を基に、児童生徒が単元の学習を振り返り、自己評価を行う。

(内面)

<学習前 月 日>

「命を大切にする」とはどういうことだと思いますか。思いっただけ書いてみましょう。

<学習後 月 日>

「命を大切にする」とはどういうことだと思いますか。思いっただけ書いてみましょう。

<自己評価>

○自分が書いた「学習前」と「学習後」を比べて、思ったことや感じたことを書いてみましょう。

道徳ふり返しシート

<タイトル>

お家の人からのメッセージ

年 組 番

氏名()

月 日	【今日の学びのタイトル】



月 日	【今日の学びのタイトル】



月 日	【今日の学びのタイトル】



月 日	【今日の学びのタイトル】

複数時間（4単位時間）の関連を図った道徳科学習計画

学 年	小学校 第6学年
学年重点目標	最上級生としての自覚と責任をもち、相手の立場に立って考えたり行動したりする。
テーマ	学習前・後の本質的な問い：「相手の立場に立って考えたり行動したりすること」について考える。

学 習 活 動 等			
道徳科の 学習前	短学活	「相手の立場に立って考えたり行動したりすること」について、考えたことを書く。 【OPPシートの「学習前」の欄】	
複数時間の 関連を図った 道徳科の学習 (4単位時間)	第1時	主題名	親切
		内容項目	B-7 親切, 思いやり
		資料名	二つの投書 (出典: 明るい心)
		ねらい	相手の立場に立って, 人に親切にしようとする気持ちを高める。
	第2時	主題名	困難に立ち向かい続ける心
		内容項目	A-4 個性の伸長
		資料名	選手になりたい (出典: 明るい心)
		ねらい	自分の立てた目標を達成するために, 困難にくじけず, 最後までやり遂げようとする意欲を高める。
	第3時	主題名	広く心を開いて
		内容項目	B-11 相互理解, 寛容
		資料名	すれちがい (出典: わたしたちの道徳)
		ねらい	相手の気持ちや考えを知り, それを大切にしようとする広い心を育てる。
	第4時	主題名	相手の立場に立って
		内容項目	B-7 親切, 思いやり
		資料名	絵本 わたしのいもうと (偕成社)
		ねらい	相手の立場に立って考え, 人を思いやる心を育てる。
道徳科の 学習後	学活	今までの学習を振り返り, 「相手の立場に立って考えたり行動したりすること」について, 考えたことを書く。 【OPPシートの「学習後」の欄】 自分が書いた「学習前」「学習後」の内容を読み, 思ったことや感じたことを書く。 【OPPシートの「自己評価」の欄】	
家庭との 関わり	学習後	道徳振り返りシートを持ち帰り, 保護者にメッセージを書いてもらう。その後, 担任に提出する。 【OPPシートの「お家の人からのメッセージ」の欄】	

複数時間（4単位時間）の関連を図った道徳科学習計画

学 年	小学校 第5学年
学年重点目標	広く他の人を思いやり，正しいと思ったことは，進んで実行し，最後まで責任をもってやり通す。
テーマ	学習前・後の本質的な問い：「命を大切にすること」について考える。

学 習 活 動 等			
道徳科の 学習前	短学活	「命を大切にすること」について，考えたことを書く。 【OPPシートの「学習前」の欄】	
複数時間の 関連を図った 道徳科の学習 (4単位時間)	第1時	主題名	自分の命を大切に
		内容項目	D-19 生命の尊さ
		資料名	アルバムの中のぼく（出典：明るい心）
		ねらい	自分の生命は周りの人々によって支えられていることを感じ，自他の生命を尊重する心情を育てる。
	第2時	主題名	力強く生き抜く
		内容項目	D-19 生命の尊さ
		資料名	赤い花びん（出典：明るい心）
		ねらい	人間の死の重さや生きることの尊さを知り，命を大切に力強く生き抜こうとする心情を育てる。
	第3時	主題名	他人の命の重さ
		内容項目	D-19 生命の尊さ
		資料名	人類愛の金メダル（出典：わたしたちの道徳）
		ねらい	命の危険がある他人のことを考えて行動することについて考え，他人の命も大切にすることを育てる。
	第4時	主題名	生きていくことの意味
		内容項目	D-19 生命の尊さ
		資料名	小児がんを知りいのちの大切さを学校で学ぼう （出典：6歳のお嫁さん など）
		ねらい	小児がんで亡くなってしまった方の話を知り，生きることの意味を考え，命を大切にすることを育てる。
道徳科の 学習後	学活	今までの学習を振り返り，「命を大切にすること」について，考えたことを書く。 【OPPシートの「学習後」の欄】 自分が書いた「学習前」「学習後」の内容を読み，思ったことや感じたことを書く。 【OPPシートの「自己評価」の欄】	
家庭との 関わり	学習後	道徳振り返りシートを持ち帰り，保護者にメッセージを書いてもらう。その後，担任に提出する。 【OPPシートの「お家の人からのメッセージ」の欄】	

複数時間（4単位時間）の関連を図った道徳科学習計画

学 年	中学校 第1学年
学年重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の生活を豊かにするためにも、軽はずみな行動で健康を損なわないよう行動しようとする気持ちを高める。 ・物事に積極的に取り組み、最後まで粘り強くやり通そうとする気持ちを高める。 ・授かった生命を精いっぱい生きることの尊さを理解し、自分だけでなく他の生命も大切にしていこうとする気持ちを高める。
テーマ	学習前・後の本質的な問い：『自分に強さ』とは何か』について考える。

学 習 活 動 等			
道徳科の 学習前	短学活	『自分に強さ』とは何か』について、考えたことを書く。 【OPPシートの「学習前」の欄】	
複数時間の 関連を図った 道徳科の学習 (4単位時間)	第1時	主題名	誠実な気持ち
		内容項目	1(3) 自律の精神, 自主, 誠実, 責任
		資料名	人であふれた駐車場 (出典: 明るい人生)
		ねらい	自己の役割と責任を自覚し, 誠実な気持ちで積極的に物事に取り組もうとする気持ちを高める。
	第2時	主題名	役割を果たすとは
		内容項目	4(4) 集団生活の向上
		資料名	わたしは言った (出典: 明るい人生)
		ねらい	集団生活の中で, 感情に左右されることなく, 自己の役割を知り, 任務を果たしていこうとする気持ちを高める。
	第3時	主題名	何のためのルール
		内容項目	4(1) 遵法の精神, 権利・義務
		資料名	自転車放置禁止 (出典: 明るい人生)
		ねらい	決まりが自分たちの安全で平等な生活を保障するために存在していることを理解し, 法や決まりを守っていこうとする気持ちを高める。
第4時	主題名	弱さを乗り越える	
	内容項目	4(2) 公德心, 社会連帯の精神	
	資料名	無人スタンド (出典: 明るい人生)	
	ねらい	社会の一員であるという自覚を深め, 公德心をもって行動しようとする気持ちを高める。	
道徳科の 学習後	学活	<p>今までの学習を振り返り, 『自分に強さ』とは何か』について, 考えたことを書く。 【OPPシートの「学習後」の欄】</p> <p>自分が書いた「学習前」「学習後」の内容を読み, 思ったことや感じたことを書く。 【OPPシートの「自己評価」の欄】</p>	

複数時間（3単位時間）の関連を図った道徳教育学習計画

学 年	高等学校 第1学年
道徳教育の 学校目標	・人間としての在り方・生き方の教育の推進を図る。 ・思いやりと奉仕の精神を培い、マナー・モラルを醸成し、心豊かに生きる態度を養う。
テーマ	学習前・後の本質的な問い：「生命の尊さとは」について考える。

学 習 活 動 等		*内容項目については中学校学習指導要領解説より	
学習前	ST	「生命の尊さとは」について、考えたことを書く。 【OPPシートの「学習前」の欄】	
複数時間の 関連を図った 道徳科の学習 (4単位時間)	第1時	主題名	救われる命
		内容項目	D-19 生命の尊さ
		資料名	ゆりかご～揺れて産声赤ちゃんポスト～(出典：朝日新聞)
		ねらい	赤ちゃんポストの是非や問題点についてさまざまな視点から考えることを通して、自他の生命を尊重する心情を育てる。
	第2時	主題名	デートDV
		内容項目	B-8 友情, 信頼 D-19 生命の尊さ
		資料名	人権講話
		ねらい	お互いの人権を尊重しながらよりよい人間関係を構築することの大切さを知り、今までの自分を振り返りながら適切な行動をしていく判断力を育てる。
	第3時	主題名	生きたくても生きられない命
		内容項目	D-19 生命の尊さ
		資料名	小児がんを知りいのちの大切さを学校で学ぼう (出典：ゴールドリボンネットワークパンフレット)
		ねらい	がんについての正しい知識やがん患者とその家族の気持ちを知ることで、病気で苦しんでいる人にどのように関わっていったらよいかを考えることを通して、有限性や連続性を感じながらかけがえのない生命を大切にしていこうとする心情を育てる。
学習後	学活	今までの学習を振り返り、「生命の尊さとは」について、考えたことを書く。 【OPPシートの「学習後」の欄】 自分が書いた「学習前」「学習後」の内容を読み、思ったことや感じたことを書く。 【OPPシートの「自己評価」の欄】	

(明朝体：「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」より)

視点	視点の例 ()は中学校	見方の例
見方へと発展させているか 一面的な見方から多面的・多角的な	T-1 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。	・ねらいとする道徳的価値をさまざまな面で考えている。
		・道徳的価値を支える様々な根拠を考えている。
		・様々な登場人物の立場で考えている。
		・時間の経過とともに変化する気持ちを考えている。
	T-2 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。	・自分の考えと友達の考えを比べて考えている。
		・自分とは違う友達の考えを大切にしながら考えている。
	T-3 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を(広い視野から)多面的・多角的に考えようとしている。	・人間の強さや弱さ等を捉えて考えている。
		・取り得る方法を、一つだけにこだわらず、複数考えている。
自分自身の価値の理解の中で深めているか 道徳的価値の理解を	J-1 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。	・教材の登場人物に自分を置き換えて考えている。
		・教材の問題点等を自分事として受け止めて考えている。
	J-2 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。	・日常生活や学校生活等を想起しながら考えている。
		・自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。
	J-3 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。	・話し合いを通して、自分だったらどうするかなど考えている。
		・話し合いを通して、友達の考えのよさを取り入れながら考えている。
		・話し合いを通して、自分の考えを見直しながらもう一度考えている。
	J-4 道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。	・自分だったらどうするかなど考えている。
		・自分の経験を想起しながら考えている。
・自分の弱さを見つめながら、考えている。		
発言・記述以外の児童生徒の姿 *1	発言が多くない児童生徒や考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒が、教師や他の児童生徒の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしたりしている。	・話す相手を見ながらじっと聞いている。
		・うなずいたり、反応したりしながら聞いている。
		・ペアやグループで、自分から発言している。
一定の期間を経て成長した姿 *2	当初は感想文や質問紙に、感想をそのまま書いただけであった児童生徒が、学習を重ねていく中で、読み物教材の登場人物に共感したり、自分なりに考えを深めた内容を書くようになってきたりする。また、既習の内容と関連付けて考えている。	・友達の考えを取り入れながら、考えるようになった。
		・自分の経験を振り返りながら、考えるようになった。
		・既習の内容を思い出しながら考えるようになった。
		・登場人物について、今までより深く考えるようになった。
		・発言や記述の量が多くなった。

* 1 発言・記述以外の児童生徒の姿：発言や記述ではない形で表出する児童生徒の姿

* 2 一定の期間を経て成長した姿：1単位時間の授業だけでなく児童生徒の一定の期間を経て、多面的・多角的な見方へと発展していたり、道徳的価値の理解が深まったりしている姿